

小諸いろいろ農園

2014年1月
第5号

冬の季節の農園は寂しいくらいに何もありません。収穫の終わった畑や田んぼは、ワラや米ぬか・菜種油カスなどの有機物をすき込み、春まで休ませます。農機具は、泥やサビを落とし整備をして倉庫にしまえます。

私たちの身体も冬の間は十分に休ませ、その間にシーズン中は忙しくてできなかった事(例えば読書や旅行)をやるうと思っています。そして何より楽しみなのは温泉めぐり。小諸は浅間山の麓に位置するため、温泉施設が割と多くあります。

私たちの農園がある小諸は、長野県の東側、東信地区と呼ばれる位置にあります。皆さんは「信州・小諸」にどのようなイメージをお持ちでしょうか。

小諸には「懐古園」や「浅間山」といった観光地や、「軽井沢」という避暑地が近くにあり、そのため「夏は涼しく過ごしやすい」と思われがちですが、平成二十四年の統計で夏の最高気温は34度です。標高が高く空気が澄んでいるので夏の陽射しは痛いくらい強い意外と暑いのです。しかしよく言われるように朝晩は涼しく過ごしやすく、その寒暖差が美味しい野菜を育てます。冬の寒さは想像以上に厳しく、東北を超え北海道並みだと勝手に思っています。冬の最低気温はマイナス4度。一日中マイナスという真冬日も数日あります。緯度は高崎市と同じ位ですが650mの標高が寒さの元凶です。

そんな気候の小諸で過ごす冬は今年で2回目となります。慌ただしく過ぎた2年目の小諸ですが、この機会に街の中をゆっくり観て廻ろうと思います。

「北国街道」の面影

小諸は江戸時代に加賀から追分を結ぶ北国街道の流通の中継拠点として宿場や問屋が軒を並べ、その後大正、明治と商人の街として栄えた歴史があります。現在の街道沿いの商店街を歩くと、当時の白壁の蔵や洋風な古い建物が目に付き、かつては大変な賑わいだったことが想像できます。

時代が昭和に移り鉄道が開通すると、商都としての役割が少しずつ薄れ、「懐古園」を中心とした観光地となりましたが、JR信越線の廃止により人の流れが激減しました。当初、長野新幹線の誘致計画があったのですが、市民の反対で無くなったそうです。商店街は寂れましたが、おかげで街並みは保存されたのです。今、小諸の中心街は街並みを生かした商店街に大きく変わろうとしています。懐古園にも劣らない、小諸の街並みを是非訪れてください。